

# 通学路に子どもたちの「給水場」 愛知の企業、熱中症対策で開設

9月9日（木）  
毎日新聞で掲載さ  
れました。



鈴木化学工業所の玄関前に開設された給水場で、下校途中に水を飲む児童たち＝愛知県幸田町六栗の鈴木化学工業所で2021年9月7日午後4時24分、渡辺隆文撮影

夏の暑い日差しの中、登下校する子どもたちの熱中症対策にと、愛知県幸田町の自動車用プラスチック部品製造・販売会社「鈴木化学工業所」が、今年の夏も本社玄関前にウォーターサーバーを置いて「給水場」を開設している。従業員が見守る中、安心して水分補給できる場所として地域の子どもたちに喜ばれている。【渡辺隆文】

開設は夏場のみで、昨年7月末に始めた。本社近くには町立豊坂小学校と幸田南部中学校があり、登下校時には多くの児童生徒らが通る。中には4キロ近く歩いて登下校している児童もいるといい、夏場は汗をかきながら通学する姿がみられる。

昨年、地域の会合で登下校時の子どもたちの熱中症が心配との声が上がった。これを耳にした成瀬敦町長から、通学路近くにある同社に「登下校時の子どもたちに水をあげてもらえないか」と打診を受けたのがきっかけとなった。小幡和史社長は「小さい頃、下校途中に近所の人から水をもらったことがあった。あの時に飲んだ水のおいしかったことを思い出した」と即座にウォーターサーバーを置くことを決めたという。もともと従業員用にサーバーを使っていたこともあり、児童用に新たに台数を増やして対応した。

同社では、登下校時を見計らってサーバーを設置。安全確保のため、社員2～3人が立ち、子供たちを見守っている。

下校途中に立ち寄って水を飲んでいたら同小5年の輪島綺星（きらら）さん（11）は「登下校の距離が長いので冷たい水を飲むと頑張れる」と笑顔。同小5年の大須賀陽輝（はるき）さん（10）も「水筒のお茶がなくなったときに飲むことができる」とうれしそうに話した。サーバーは9月30日まで設置される。